第１学年社会科学習指導案

日　　時：令和３年１１月５日（金）　　５時間目

[redacted]

会　　場：１年２組教室

[redacted]

１　単元（題材）名

第３章中世の日本　２節ユーラシアの動きと武士の政治の展開　２鎌倉幕府の滅亡

２　内容のまとまり

〔歴史的分野〕「Ｂ近世までの日本とアジア」（２）「中世の日本」

３　単元（題材）の目標

（１）①元寇がユーラシアの変化の中で起こり，国内にどのような影響を与えたのか理解できる。

②南北朝の争乱と室町幕府，日明貿易，琉球の国際的な役割などを基に，武士政治の展開とともに，東アジア世界との密接なかかわりが見られたことを理解できる。

③農業など諸産業の発達，畿内を中心とした農村における自治的な仕組みの成立，武士や民衆などの多様な文化の形成，応仁の乱後の社会的な変動などを基に，民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解できる。　「知識及び技能」

（２）①モンゴル帝国の拡大によるユーラシアとの交流，東アジアにおける交流，農業や商工業の発達などに着目して，元寇が国内に及ぼした影響，武家政治の展開と東アジアの動き，民衆の成長と新たな文化の形成について，中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現できる。

「思考力，判断力，表現力等」

（３）①中世後半の日本について，よりよい社会の実現に向けて，武士や農民などさまざまな階層の人々が団結し，困難を解決しようとする様子を主体的に追求できる。　「学びに向かう力，人間性等」

４　単元（題材）について

（１）生徒について

生徒たちは，これまでに歴史的分野において，私たちと歴史，身近な地域の歴史，古代までの日本について学習してきている。その中で，写真資料，グラフ，文字資料の読み取りを行っている。また，まとめを自分の言葉で書くことを行っている。しかし，資料から読み取った事実をもとに考察すること，複数の資料を関連付けて考察すること，根拠をはっきりとあげて表現することについては，不得手な生徒も多い。また，事前に行った社会科の授業におけるアンケートの結果は，次の通りであり，資料の読み取りや表現することに不十分な点が見られる。

NO.	設問	当てはまる生徒の人数（３０人中）
1	社会の授業で，資料から読み取ったことなどをもとに，学習課題について考えていますか。	９人
2	社会の授業で，ペア学習やグループ学習のときに，習った用語を使って仲間に説明していますか。	１２人
3	社会の授業で，ペア学習やグループ学習のときに，自分の考えを仲間に伝えていますか。	１６人

そこで，本単元の指導にあたっては，学習課題について，資料から読み取った事実から考察すること，さらに，考察したことを表現する活動をより充実させることで，思考力・判断力・表現力を育てていくことを大切にしたい。

（２）教材について

本単元は，モンゴル帝国の拡大とモンゴルの襲来，南北朝の動乱，室町幕府の成立・展開，応仁の乱，戦国大名を取り上げる。鎌倉幕府が滅び，室町幕府が武士の政権として全国に展開していく。しかし，一方で，大きくみるとこの時代は戦いが絶えない時代であった。その背景として，経済の変動・発展，民衆の成長，東アジアを中心とする海外の影響や交流などがあった。特に、惣村の発展や一揆など民衆の成長は顕著であり，よりよい社会の実現に向けて人々が団結し困難を解決する様子が見られる。また室町文化については，産業の発展と民衆の成長によって，中央の文化が発展し，地方への影響が見られ，今日の文化につながっているといえる。

それ故に，本単元の中世後半の日本において，よりよい社会の実現に向けて，武士や農民などさまざまな階層の人々が団結し，困難を解決する様子を扱うことは，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な社会の形成者としての資質・能力を育てるうえで重要であると考える。

（３）指導について

中世後半を大きな流れとして捉えさせるために，「なぜ中世後半は、戦いが多いのか」という単元課題を設定する。この課題を解決するために，武士の主従関係，東アジアとの関わり，惣と呼ばれる自治組織などと関連付けて考察し，自分の言葉で表現できるようにさせたい。さらに，１単位時間毎に単元課題に迫る振り返りを行うことで，単元課題を意識させたい。

また，指導の手立てとして，複数の資料を提示し，読み取る活動を取り入れる。さらに，ペアや少人数グループ（３～４人）による話し合いを充実させ，それぞれの意見や考えを表現する言語活動の場を設け，様々な見方や考え方を共有する機会を設定することで，自分の考えを深め，歴史的事象をより多面的・多角的に考察させるようにする。このような学習活動を通して，思考力・判断力・表現力を高めていきたい。

（４）本研究との関わり

研究主題【主体的に学びに向かう生徒の育成　～生徒の「問い」を大切にした授業を通して～】

①「生徒の問いを大切にした授業」について

生徒の問いを引き出すために，以下の思考のズレを大切にしたい。

ズレの様相
(a) 友達との考えのズレ　(b) 予想とのズレ　(c) 感覚とのズレ　(d) 既習とのズレ

本単元では，学習課題の設定において，(c) 感覚とのズレ (d) 既習とのズレを生ませる資料提示や発問を行うことで，生徒に問いを抱かせたい。他者との関わりを大切にする学習活動においては，(a) 友達との考えのズレから，自分の考えを深め，学びを深めさせたい。終末部分においては，(b) 予想とのズレを確認することで，自分の思考を整理させたい。

②「問い」のある授業について

★学びを追求する課題設定

・感覚とのズレや既習とのズレを生み出す資料提示を行う。

★他者との関わりを大切にする学習活動と，教師によるファシリテートの在り方について

・他者の考えと比べながら，既習事項との共通点や相違点を確認する。

・学習したことを他者に説明する。

・生徒の考えや発言をつなげたり，価値づけたりすることで，学習のねらいに迫る。

・生徒が発言した根拠を明確にするための発問をする。

★学びを実感する振り返り

・単元課題を設定し，１単位時間毎に単元課題に迫る振り返りを行う。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①元寇がユーラシアの変化の中で起こり，国内にどのような影響を与えたのか理解している。 ②南北朝の争乱と室町幕府，日明貿易，琉球の国際的な役割などを基に，武士政治の展開とともに，東アジア世界との密接なかかわりが見られたことを理解している。 ③農業など諸産業の発達，畿内を中心とした農村における自治的な仕組みの成立，武士や民衆などの多様な文化の形成，応仁の乱後の社会的な変動などを基に，民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。	①モンゴル帝国の拡大によるユーラシアとの交流，東アジアにおける交流，農業や商工業の発達などに着目して，元寇が国内に及ぼした影響，武家政治の展開と東アジアの動き，民衆の成長と新たな文化の形成について，中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。	①中世後半の日本について，よりよい社会の実現に向けて，人々が団結し困難を解決しようとする様子を主体的に追求しようとしている。

6 指導と評価の計画

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
【単元課題】：なぜ中世後半は、戦いが多いのだろう。			
1	○モンゴル帝国とユーラシア世界 モンゴル帝国の襲来 ・モンゴル帝国が拡大し，ユーラシア世界に影響を与えたことを考察する。	・モンゴル帝国の拡大とユーラシア世界の形成やモンゴル帝国の襲来について，相互の関連に着目して考察させる。	・モンゴル帝国がユーラシア世界に及ぼした影響を大陸の一体化とその影響，元寇に関連付けて考察し，表現している。［ノート］
2 本時	○鎌倉幕府の滅亡 ・鎌倉幕府が滅亡した理由を考察する。	・鎌倉幕府の滅亡について，主従関係や経済状態など，相互の関連に着目して考察させる。	・鎌倉幕府の滅亡について，主従関係や経済状態に着目して考察し，表現している。［ノート］ ・経済的に困窮した御家人が新しい世の中を求める様子について，主体的に追求しようとしている。［振り返り］
3	○南北朝の動乱と室町幕府 ・鎌倉幕府が滅んだ後に，政治や社会がどのように変化したのか考察する。	・室町幕府の支配のしくみについて，鎌倉幕府の仕組みと比較して考察させる。	・建武の新政から南北朝の動乱に至る過程や，動乱がもたらした武家社会の変化を考察し，表現している。［ノート］ ・守護が新たな権限を与えられて守護大名となり，後の政治に影響を及ぼしたことを理解している。［ノート］
4	○東アジアとの交流 ・明，朝鮮，琉球王国，蝦夷地との交流を調べ，考察する。	・東アジアとの交流や結びつきについて，相互の関連に着目して，日本にどのような影響を与えたのか調べ，考察させる。	・日明貿易の様子，中継貿易で栄えた琉球や蝦夷地の動きなど，東アジアの人々との交流や結びつきを理解している。［ノート］
5	○産業の発達と民衆の生活 ・産業の発展が民衆にどのような影響を与えたのか考察する。	・産業の発達と民衆の生活について，相互の関連に着目して考察させる。	・畿内を中心に自治的な組織が生まれたことについて，農業や商業・手工業の発達や土一揆と関連付けて考察し，表現している。［ノート］
6	○応仁の乱と戦国大名 ・応仁の乱により，地方で戦国大名が誕生したことを考察する。	・応仁の乱による社会の変化について，推移に着目して考察させる。	・応仁の乱による社会の変化について，分国法や城下町などを，これまでの支配の在り方との違いに関連付けて考察し，表現している。［ノート］
7	○室町文化とその広がり ・室町文化の特色を，現在とのつながりを通して考察する。	・室町文化の特色について，現在とのつながりに着目して考察させる。	・武家文化と公家文化の融合など，室町時代の文化の特色をとらえている。［ノート］
8	○中世後半までの学習をふり返ろう ・中世後半に戦いが多い理由をさまざまな視点から考察する。	・武士，東アジアとの関わり，民衆の動きの視点で考察させる。 ・これまで学んだ中世後半について，相互の関連に着目して説明させる。	・中世後半に戦いが多かった理由を，武士の主従関係，東アジアとの関わり，惣と呼ばれる自治組織などと関連付けて考察し，表現している。［ノート］

7 本時の指導

（1）本時の目標

・鎌倉幕府の滅亡について，主従関係や経済状態に着目して考察し，表現することができる。
【思考・判断・表現】

・経済的に困窮した御家人が新しい世の中を求める様子について，主体的に追究することができる。
【主体的に学習に取り組む態度】

（2）展開

段階	学　習　活　動（研究との関連★）	指導上の留意点○　評価【◆】
導入 7 分	○前時の復習★学びを実感する振り返り ・元寇についてペアで説明しあう。 ○学習課題の設定 ・年表を見て，元寇から５０年後に鎌倉幕府が滅亡することを読み取る。	★学びを追求する課題設定（感覚のズレ） ○生徒の感覚のズレから問いを生み出し，学習課題を設定する。
	本時の課題：元寇に勝利した鎌倉幕府が滅亡したのは、なぜだろう。	
展開 30 分	○予想 ・幕府の力が弱まったから。 ・御家人が幕府を裏切ったから。 ○学習課題の追求 (1) 資料Aから，元寇での負担が大きかった御家人が恩賞を得られなかったことを読み取る。 (2) 資料Bから，御家人が分割相続を繰り返すことで困窮したことを読み取る。 (3) 資料Cから，幕府の対応策を読み取る。 (4) 幕府の対応が，御家人の困窮の改善につながらず，御家人が新しい世の中を求めたことを考察する。 (5) 鎌倉幕府を倒すために，どのような人物が関わったのか，教科書で調べる。	○個人で考える時間を確保し，グループで考える。 ・資料Ａ・Ｂは，個人→ペア ・資料Ａ・Ｂは、同時に考察させる。 ・資料Ｃは，個人→グループ ○生徒が発言したことの根拠を明確にする発問をする。 ★他者との関わりを大切にする学習活動と，教師によるファシリテートの在り方について（4　ゆさぶる） ◆鎌倉幕府の滅亡について，主従関係や経済状態に着目して考察し，表現している。【思考・判断・表現】 ○学習課題の予想に立ち返る。 ○まとめにつながるキーワードを確認する。
	まとめ：御家人は，元寇での負担が大きかったが恩賞を得られず，さらに分割相続で領地が小さくなり経済的に困窮したため，鎌倉幕府への不満が高まったから。	
終末 13 分	○振り返り ・振り返りシートに記入する。 ★学びを実感する振り返り	◆経済的に困窮した御家人が新しい世の中を求める様子について，主体的に追究している。【主体的に学習に取り組む態度】

（3）本時の評価規準

	十分満足（A）	概ね満足（B）	努力を要すると判断される状況への生徒への指導の手立て（C）
思判表	（B）に加え，よりよい社会の実現に向けて，人々が団結し困難を解決しようとする様子についても触れ，考察し，表現している。	鎌倉幕府の滅亡について，主従関係や経済状態に着目して考察し，表現している。	まとめの前に、板書でキーワードを示す。
態度	（B）に加え，単元課題についても触れ，振り返りシート記述している。 「粘り強さ」「調整」「見通し」	経済的に困窮した御家人が新しい世の中を求める様子について，主体的に追究している。 「粘り強さ」「調整」	ペアやグループ学習での活動の様子を振り返りシートに記入させる。